



神戸大学山岳会 第176回 例会報告 『能勢蓑庵』 & 『舞鶴・雲の上のゲストハウス』

記録:山口幸久 編集:井上達男

◆日時: 2014年7月11日(金)~13日(日)

◆参加者: 和光広典(世話役) 居谷千春(世話役、山行リーダー)

金井健二 田中信行 高田和三 井上達男 山口幸久 橋本昭(HNA) 計8名

◆行動概要:

☆2014年7月11日 曇り、にわか雨

蓑庵集合、宿泊

台風8号の通過で当初予定の能勢散策はカットし、夕方集合となった。

☆2014年7月12日 晴れ

舞鶴・由良ヶ岳640m登山、「雲の上のゲストハウス」宿泊

朝食後、橋本さん蓑庵から自転車で帰宅。7名で由良ヶ岳下山後、金井さんJR西舞鶴より帰宅。

西舞鶴たかお温泉「光の湯」にて汗を流した後、西方寺平の「雲の上のゲストハウス」にてBBQなど。

☆2014年7月13日 雨

赤岩山669m 雨中登山(高田和 井上 山口 居谷)、ゲストハウスに下山後解散



蓑庵にて橋本氏の愛車を囲んで(2014/7/12 朝)

◆記録:

・11日、台風も通り過ぎ蒸し暑い。川西能勢口で金井(健)さんと山口(私)を拾ってもらい、田中(信)さん



と高田(和)さんの4人で、田中(信)さん運転するカローラ 4WD で蓑庵に向かう。世話役の和光さんと居谷兄はすでに到着していて、今晚の宴会の準備をしている。そうこうしていると橋本さんが自転車で豊中から駆けつけた。そのいでたちは、蓑笠にチャリダー姿。ベテランサイクリストの風格が漂っており、その自転車たるや、オーダーメイドのフレームに皮巻きのドロップハンドル。Brooks の皮製のサドル。旧東ドイツ軍のサイドバッグに仏製のフロントバッグ。スイス製のダブルスタンドに真鍮のベルと、こだわりと年季を感じさせる。我が“Great Journey”何ぞは足元にも及ばない。

・一休み後、“能勢ガイド”の和光さんから能勢一揆等の歴史を一通り聞いた後、近辺を散策する。空模様が怪しいが手ぶらで出かける。案の定、途中から夕立に見舞われ、全員ずぶ濡れで戻ってくる。濡れたものを乾し、着替えて能勢温泉に入りに行く。帰ってくると、丁度井上夫妻が到着したところ。奥さん涼子さんとは30数年ぶりの再会で、ゆっくりお話をしたかったが、横槍？が入ったりして、逃げるように実家に向かわれた。残念。

・夜は、ボリュームたっぷりの和光さん手作りの田舎料理。会話も大いに弾み、あの時の話、ここだけの話、実は、本来はと話題が尽きない。飲んで、食べて、喋って(半分以上は和三さんだったが)、10時過ぎにシュラフにもぐりこむ。

・翌12日は、居谷兄手作りのモーニングをいただき、車2台に分乗し国道173号を快走し予定通り登山口に10時前に着く。ここからいよいよ山登り開始。登山道は〇/8表示されているが、間隔はいい加減。蒸し暑い中それぞれマイペースで登る。山腹の杉林の中をジグザグに行く。傾斜もきつい。表示の数がなかなか減らない。特に、最後の7/8から稜線までの長いこと。ようやく尾根に出ると若狭湾が見える。

頂上には虚空蔵菩薩が祀られており、近隣の人は13参りに登るそうな。井上さんの800山登頂記念、私の65回目の誕生日登山を記念して写真を撮る。頂上からの眺めはまさに絶景。眼下に由良川、その河口の長い鉄橋を北近畿タンゴ鉄道の2両編成が渡ってゆく。

東には舞鶴湾の入口の火力発電所。西には丹後半島。天橋立はここ東峰からは見えず、西峰からは見え



由良ヶ岳南側登山口にて



標高 330m 休憩



由良ヶ岳山頂で65歳誕生日の山口幸久

るそうな。目を南に向けると、明日登る予定の赤岩山のかなたに大江山が望まれる。さすが、近畿 100



名山の名にふさわしい眺望だ。





・ここでパーティーは二つに分かれ、世話役の二人は、元のルートを戻り(居谷兄はさすが西峰に登ってから)車を我々の下山口まで回してくれる。我々は西峰に向かう。西峰の眺めは東峰に劣るものの、天橋立の一部が遠望できる。標高は東峰より少し高いはずだが、同じ 640mと書いてある。コルに戻り由良に向かって急降下。足元がぬかるんで非常に滑りやすい。こんな時ストックが有効だがそんなものは持ち合わせていない。腰に負担をかけないように一步一步慎重に下るも、途中ですってんころりん尻餅をついてしまった。だんだん足が笑ってくる。前に行く高田(和)さんは、その口と同じで足運びが軽快で滑らかである。汗をだらだら流しながら国民宿舎由良荘に着く。もう世話役の二人は車とともに着いている。彼らはあの悪い道を走るように降りたのだろう、感心する。汚れたズボンをはき替え、西舞鶴たかお温泉「光の湯」に行く。金井(健)さんとはここで別れる。これから大阪に帰り、明日には蓮華温泉に行かれるとのこと。元気老人(失礼)そのもので、私なんかは 65 歳になったとはいえまだまだ若造か。

・温泉は、ラドン含有ナトリウム・炭酸塩・塩化物泉、いわゆる美人の湯で肌がすべすべする。体重を量ると 2kg 減っている。うれしくなって湯上りのビールを一気飲み。最高の気分。さっぱりして、今晚の宿である“雲の上のゲストハウス”に向かう。着くと、居谷兄の娘さん夫婦と 2 人の女の子のお孫さんがバーベキュー用意をして待っていてくれた。ご馳走が楽しみだ。予想に違わず、天然鮎の塩焼き、飛魚等の日本海の魚の刺身、焼きとうもろこし……。最後は鯖の“へしこ”で湯漬けを頂く。空には時たま満月が雲の間から顔をのぞかせる。日本の田舎での最高の誕生日であった。



雲の上のゲストハウスを出発する 4 人
2014/7/13 8:16(田中信行撮影)



赤岩山 669m 霧と雨の頂上

・翌 13 日朝、蚊の羽音で目が覚める。5 時過ぎ頃か。早速外に出て一服つける。高田(和)さんもパジャマ姿でやっている。朝霧が谷をゆっくりあがってゆく。7 時過ぎに朝食を食べていると、雨が降り出した。空模様からして、これは止みそうにない。田中(信)さんと和光さんは早々に残留を決めた。私のほうは大方の予想を裏切り、赤岩山に登ることにする。完全武装に身を固め、格好はよいが、田中(信)さんが心配してかストックを貸して下さった。さすがに体が重いがストックでリズムを取りながら、ゆっくり登る。途中の“後〇〇社”とかの表示に騙されながらも、昨日の由良が岳の登りよりは勾配がゆるいが、相変わらず足元は滑りやすい。こういう時はストックがありがたい。“立てり岩”あたりから岩峰になる。“残



り僅か”の表示で元気を出し、岩場を慎重に行く。その名の通り岩が赤い。すると、“残りもう少し”の表示。励まされているのかおちょくられているのか、岩の間を縫うようにして行くと頂上に着いた。雨と風で視界は悪いが、久しぶりの雨中登山を味わった。遠い昔の大峯の新人山行の時のことをふと思い出す。頂上で井上さんから頂いた“ヤクのジャーキー”をほおぼり、また、井上さんが皇太子殿下と会われた時の“ヤクの駄洒落”で大笑いして別ルートで下る。今回はストックの御蔭で尻餅はつかず。かくして私のシニアの仲間入りの誕生日山行は終了。“山と人”の有難さを改めて思い知ることが出来ました。今回お世話になった皆さん有難うございました。(以上 記録 :山口記)





居谷さん令嬢夫妻と孫娘二人を加えて記念撮影 2014/7/13 12:00

(以上 注記無き写真撮影: 地図作成、GPS データ: 井上達男)

Mamemo: 西方寺平と雲の上のゲストハウス

<西方寺平> <http://www.pref.kyoto.jp/furusato/15600033.html>

「舞鶴市の北西、赤岩山（標高 669 メートル）の中腹に、約 6 ヘクタールの農地が急峻な斜面にずっしりと腰を据えています。棚田の畦畔に大きな岩が顔を出し、開墾した人々の苦労を偲び、現在も米作りをしている農家の方の汗を感じることができます。また、5 年前に西方寺平農業小学校を地域で自主的に開校しました。ここでは、農作業などの実体験を通じて農業と自然の大切さ、すばらしさを学んでもらっています。

さらに、平成 12 年度から棚田オーナー制度（6 組）を実施し、都市住民との交流を図っています。短中期滞在型の宿泊施設（トレーラーハウス）や屋外トイレ・シャワーを設置し、新規就農希望者の支援、棚田の保全に力を入れています。

<雲の上のゲストハウス> <http://ghcasa.web.fc2.com/>

京都府舞鶴市加佐地方に誕生した田舎暮らし体験簡易宿泊施設(ゲストハウス)。その名の通り、晴れた早朝には雲海が眼下に広がり、幻想的な風景が楽しめる。長期滞在も可能となっている。農業研修・農業体験の拠点としてもご利用可。休憩や半日利用も可能なので、『BBQ だけ』なども快適。